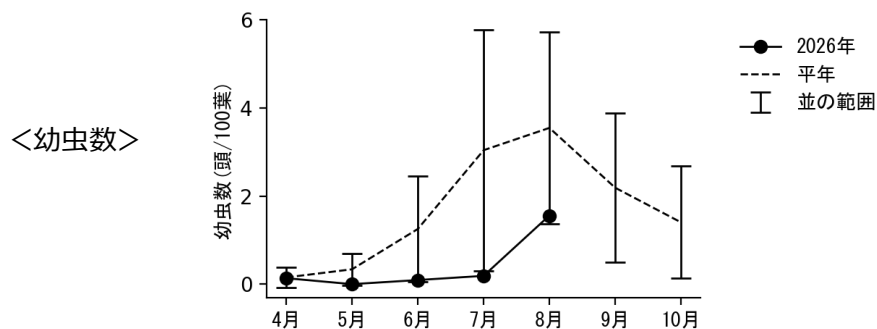
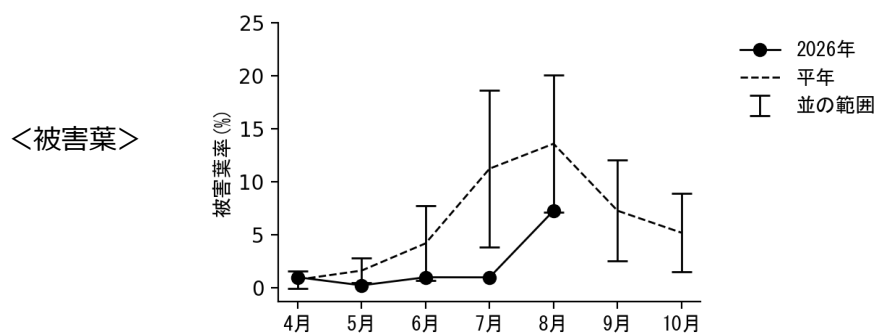


作物	カンショ		地域	沖縄群島
病害虫名	① イモキバガ（イモコガ）			
調査結果	8 月の発生量（平年比）	並		
予 報	8 月からの増減傾向	↘		
	9 月の発生量（平年比）	やや少		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

調査結果

今期と平年の発生推移



・発生ほ場率87.5%（平年：94.4%）

防除のポイント

・発生初期の防除が有効であるので、被害葉がみられたら薬剤散布する。



被害葉（つつられた葉）

作物	カンショ	地域	沖縄群島
病害虫名	② エビガラスズメ		
調査結果	8 月の発生量（平年比）	やや多	
予報	8 月からの増減傾向	→	
	9 月の発生量（平年比）	やや多	

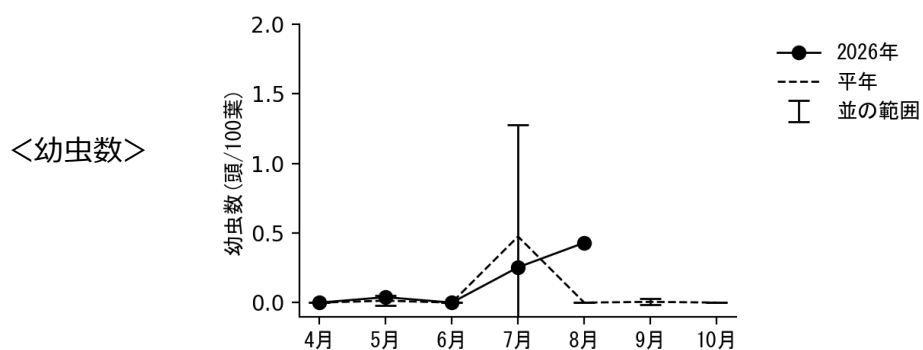
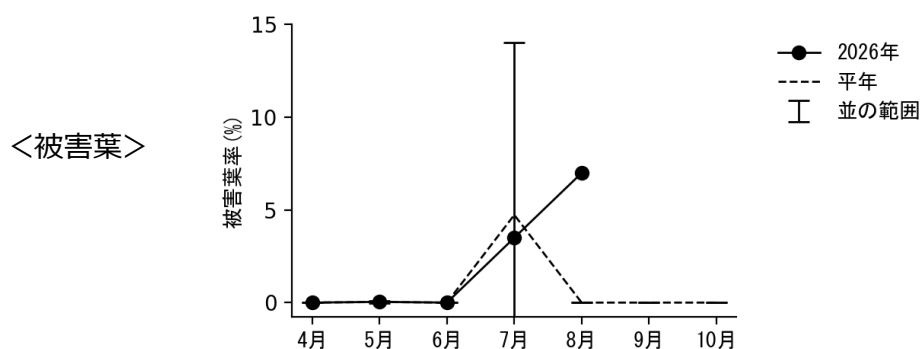


予報の根拠

平年の発生量の推移 (→)

調査結果

今期と平年の発生推移



- ・発生ほ場率12.5%（平年：0%）
- ・一部ほ場で多発

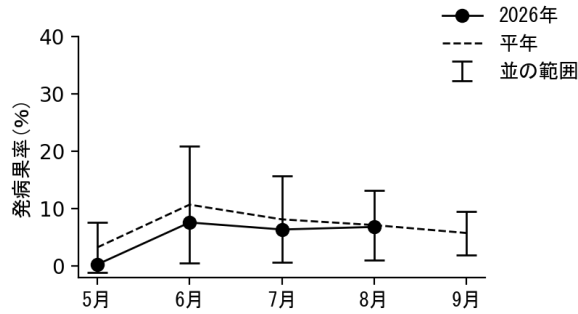
防除のポイント

- ・若齢幼虫の早期発見に努め、薬剤防除を行う。

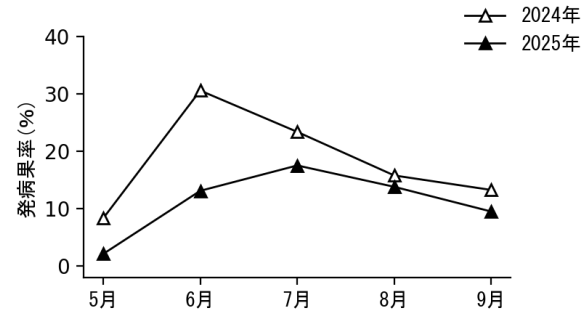
作物	かんきつ（温州みかん）		地域	沖縄群島
病害虫名	① そうか病			
調査結果	8 月の発生量（平年比）	並		
予 報	8 月からの増減傾向	↘		
	9 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

調査結果

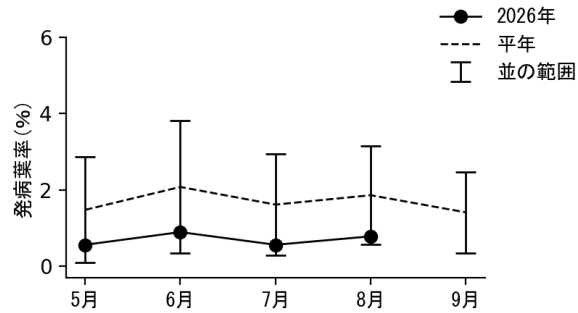
発病果率の推移（今期と平年）



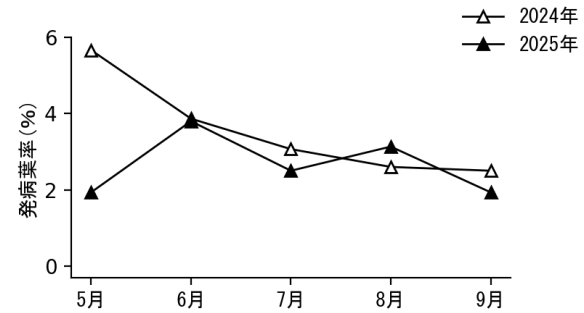
発病果率の推移（過去2年）



発病葉率の推移（今期と平年）



発病葉率の推移（過去2年）



- ・ 果実の発病度1.4（平年1.9）
- ・ 発生ほ場率100%（平年：75.0%）

防除のポイント

- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

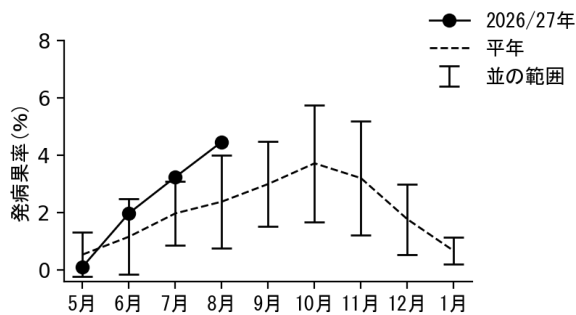
被害果→



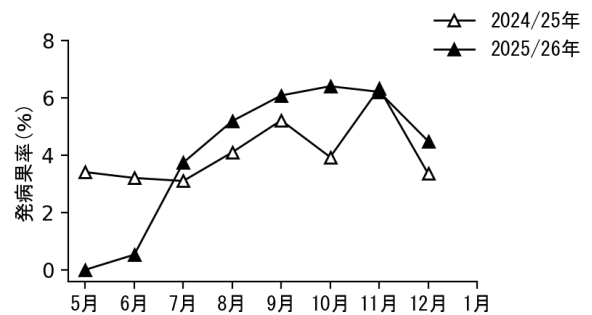
作物	かんきつ（タンカン）		地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病			
調査結果	8 月の発生量（平年比）	やや多		
予 報	8 月からの増減傾向	↗		
	9 月の発生量（平年比）	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）		

調査結果

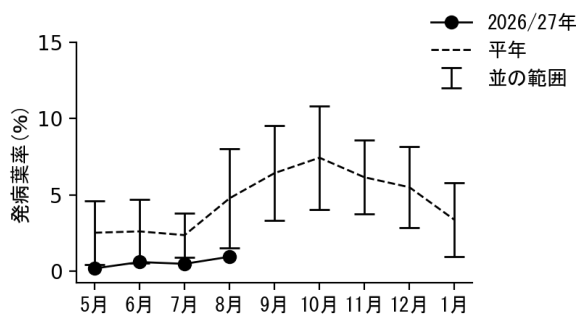
発病果率の推移（今期と平年）



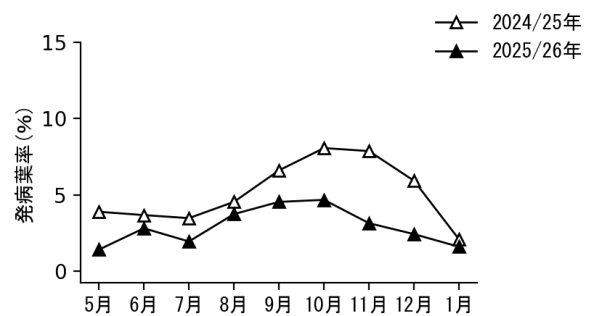
発病果率の推移（過去2年）



発病葉率の推移（今期と平年）



発病葉率の推移（過去2年）



- ・ 果実の発病度0.9（平年0.5）
- ・ 発生ほ場率100%（平年：74.0%）

防除のポイント

- ・ 本病はミカンハモグリガによる食害痕から発生しやすく、翌年の伝染源になるので、ミカンハモグリガ被害葉の除去に努め、被害が目立つ場合は薬剤による防除を行う。
- ・ 罹病枝などの病斑が伝染源となり、台風による葉や枝の傷口（風傷）は感染を助長することから、台風前後ともに薬剤防除を行う。

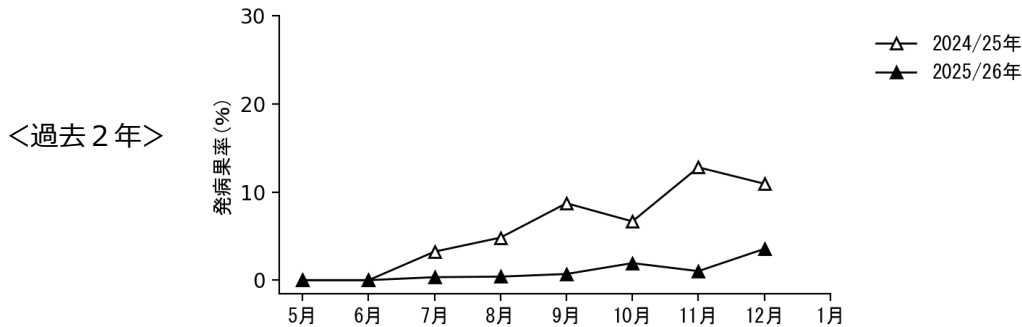
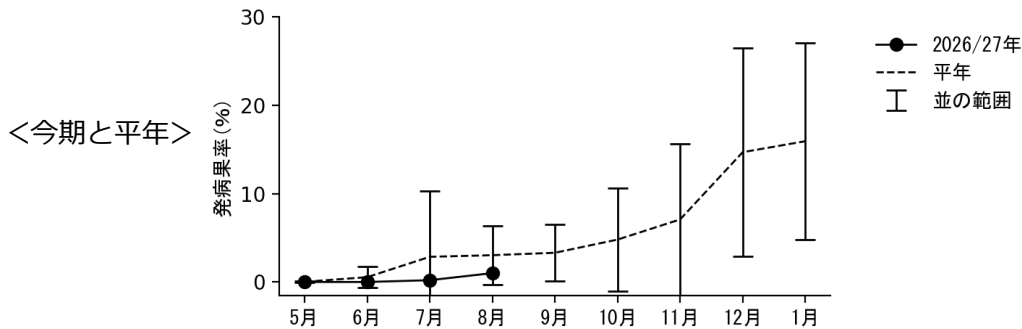
被害葉→



作物	かんきつ（タンカン）		地域	沖縄群島
病害虫名	② 黒点病			
調査結果	8 月の発生量（平年比）	並		
予報	8 月からの増減傾向	→		
	9 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

発病果率の推移



- ・ 果実の発病度0.2（平年0.7）
- ・ 発生ほ場率40.0%（平年：58.0%）

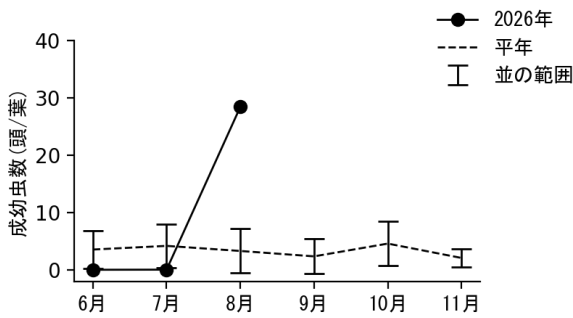
防除のポイント

- ・ 罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

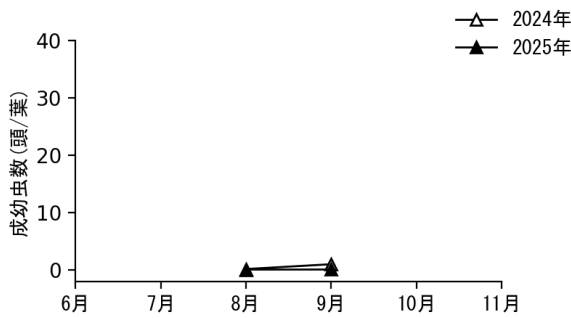
作物	マンゴー		地域	沖縄群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ			
調査結果	8 月の発生量（平年比）	多		
予 報	8 月からの増減傾向	→		
	9 月の発生量（平年比）	多		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

調査結果

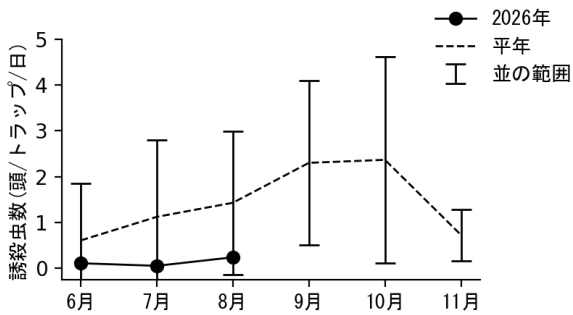
葉当たり成幼虫数の推移（今期と平年）



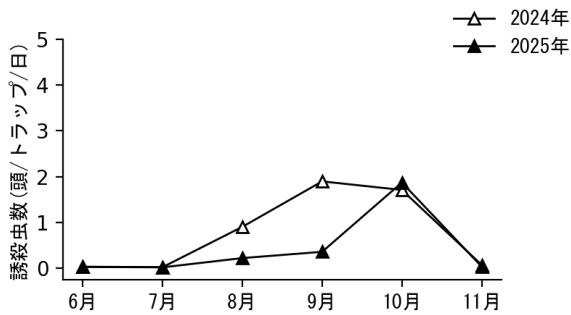
葉当たり成幼虫数の推移（過去2年）



トラップ当たり誘殺虫数の推移（今期と平年）



トラップ当たり誘殺虫数の推移（過去2年）



・発生施設率100%（平年：72.5%）

防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 収穫期に発生の多かった施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

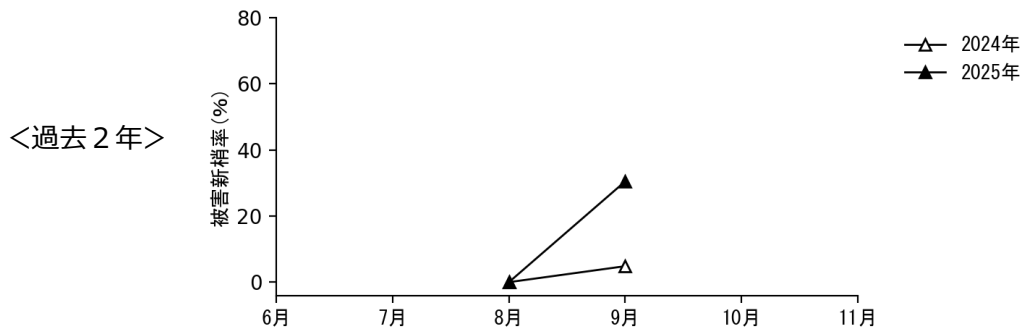
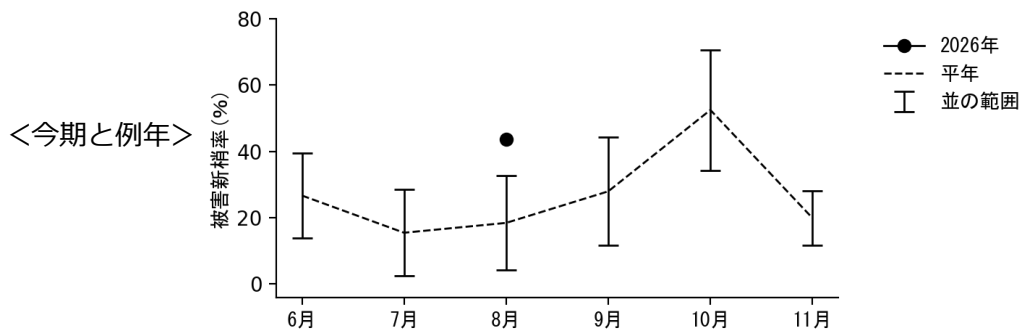


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー		地域	沖縄群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ			
調査結果	8 月の発生量（例年比）	やや多		
予報	8 月からの増減傾向	↗		
	9 月の発生量（例年比）	やや多		
予報の根拠		例年の発生量の推移（↗）		

調査結果

寄生新梢率の推移



・発生施設率87.5%（平年：61.0%）

防除のポイント

- ・産卵から羽化まで約2週間と繁殖スピードが速いことから、新葉をよく観察し、早期発見・防除に努める。また高密度に寄生された葉は落葉が早く、幼虫の脱出痕から炭疽病等にも感染しやすくなることから、被害葉及び不要な新梢を除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・高湿度条件で幼虫や蛹の生存率が高まることが知られているため、施設内の湿度管理に留意する。



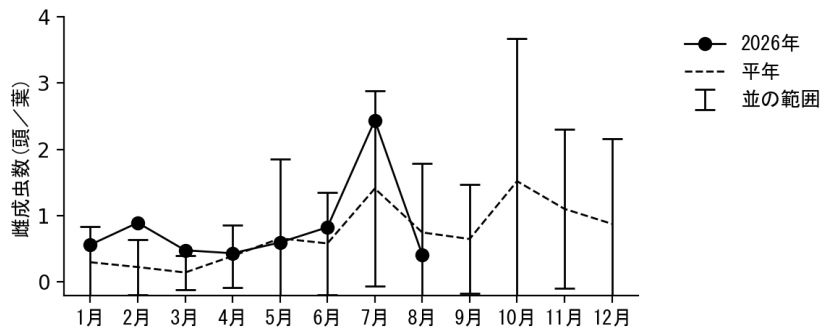
被害葉

作物	マンゴー		地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハダニ類			
調査結果	8 月の発生量（平年比）	並		
予報	8 月からの増減傾向	→		
	9 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）		

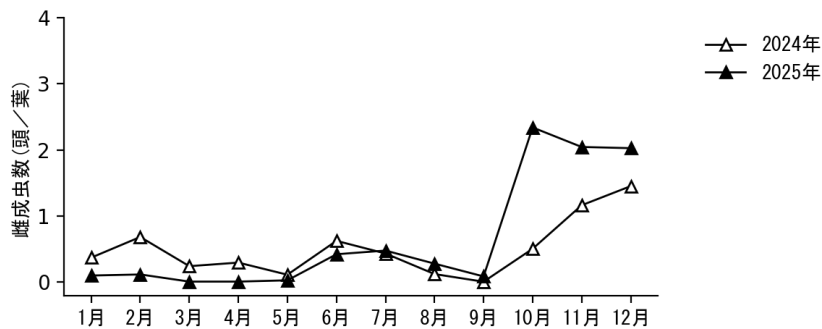
調査結果

雌成虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率75.0%（平年：49.3%）

防除のポイント

- ・多発すると防除が困難となる。特に収穫時、発生が多くみられた施設では、多発する傾向があるため早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

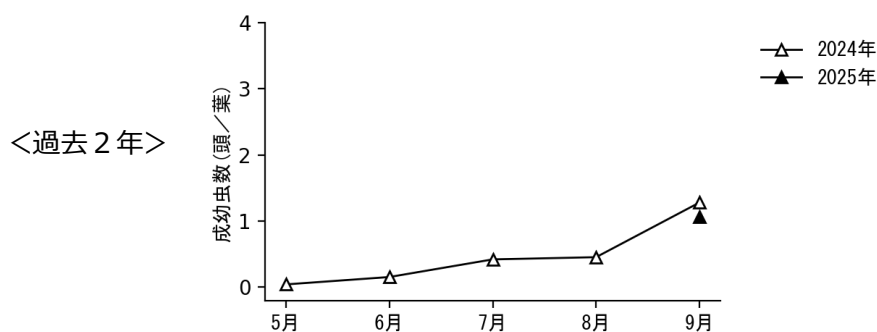
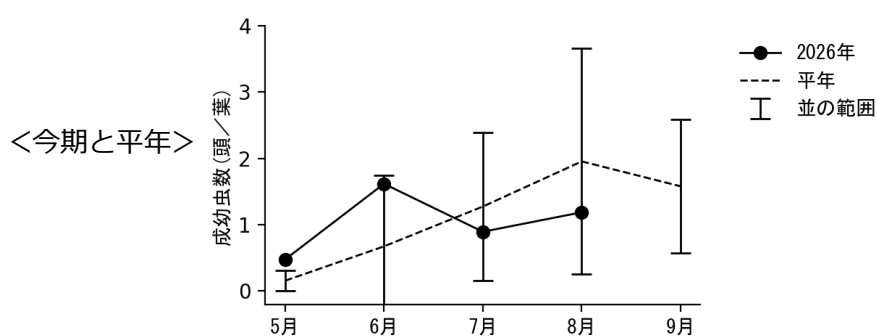


マンゴーツメハダニ

作物	オクラ		地域	沖縄群島
病害虫名	① フタテンミドリヒメヨコバイ			成虫
調査結果	8 月の発生量（平年比）	並		
予報	8 月からの増減傾向	↘		
	9 月の発生量（平年比）	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）		

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率60.0%（平年：82.5%）

防除のポイント

・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。

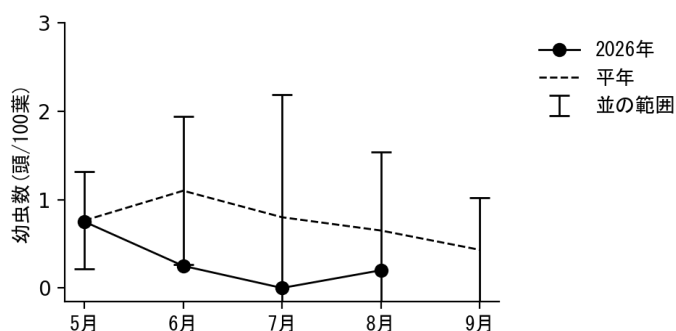


作物	オクラ	地域	沖縄群島
病害虫名	② チョウ目幼虫		
調査結果	8 月の発生量（平年比）	並	
予報	8 月からの増減傾向	↘	
	9 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）	

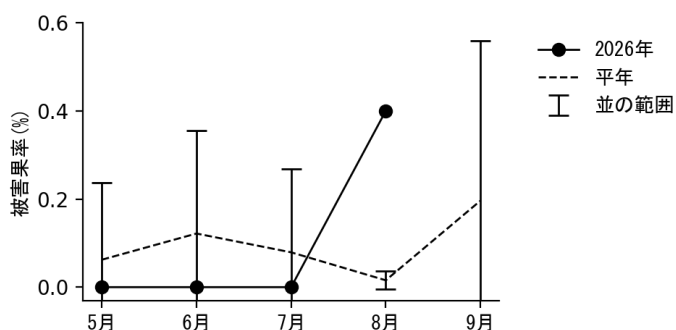
調査結果

幼虫数の推移（今期と平年）

<葉>



<果実>



・発生ほ場率20.0%（平年：25.0%）

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・食害痕を発見したら、速やかに薬剤を散布する。



クサオビリンガ



ハスモンヨトウ



ワタノメイガ



ワタアカリバ



タイワンキドクガ



フタガリコガ